

FUJITSU Climate and Energy Vision

富士通グループ中長期環境ビジョン「FUJITSU Climate and Energy Vision」に基づき温室効果ガス（GHG）排出量の削減目標を設定し、気候変動対策に取り組んでいます。

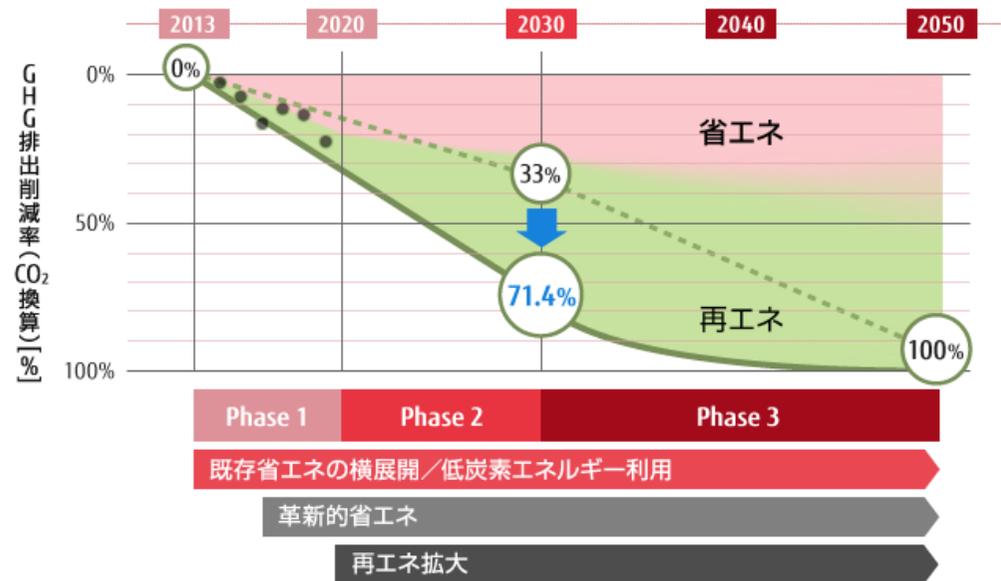
富士通グループの取り組み

富士通グループでは、気候変動への対応を重要課題と捉え、従来から環境行動計画の目標に掲げ積極的に取り組んできました。さらに、課題解決にリーディング企業として貢献するには、長期的なビジョンを持って、富士通グループが一丸となって取り組むことが必要であると認識し、外部有識者へのヒアリングや外部団体などの活動を通じての知見収集やさまざまなステークホルダーとの対話を行いました。これらを踏まえて、社長を委員長とする環境経営委員会（現サステナビリティ経営委員会）で、気候変動に関する中長期環境ビジョン「FUJITSU Climate and Energy Vision」を策定し、2017年5月に発表しました。

また、2021年4月、自らの脱炭素化への動きを加速するため、「自らのCO₂ゼロエミッション達成に向けた2050年までのロードマップ」の2030年目標を33%から71.4%まで上方修正しています。

（詳細：<https://www.fujitsu.com/jp/about/environment/climate-energy-vision/>）

「自らのCO₂ゼロエミッション達成に向けた2050年までのロードマップ」



富士通フロンテックグループの取り組み

「FUJITSU Climate and Energy Vision」の達成に向け、「富士通フロンテックグループ環境行動計画」のテーマとして「事業所におけるGHG排出量の削減」を掲げ、単年・中期の指標を設定して取り組んでいます。

これまで、燃料電池発電システムやLED照明、高効率チャンバーの導入などの設備投資と、電力使用量の見える化や省エネ委員会の運営などのソフト面での対策を通じて削減努力を行ってきた結果、当社グループの2020年度の実績は、対2013年度比でマイナス1,678トンのCO₂（15.2%減）となりました。

（詳細：<https://www.fujitsu.com/jp/group/frontech/about/sustainability/environment/climate-action/>）



燃料電池発電システム（熊谷SSC）



水銀灯から交換したLED照明（FDTP）

1.5℃シナリオ達成に向けた取り組みの強化

富士通グループがSBTiにおいて2℃水準から1.5℃水準へ再認定を受けたことに伴い上方修正された、Phase 2（2030年までに2013年比で71.4%削減）の目標を達成するため、取り組みを強化しています。

具体的には、富士通グループではRE100において2030年までに使用エネルギー全体の40%相当の再生可能エネルギーを導入する目標を掲げていることから、当社グループにおいても同様の計画を策定し、2021年度から新潟工場で先行して同エネルギーの導入を開始しました。

また、海外グループ会社のFDTPでは、2019年11月に発効されたフィリピン版省エネ法（共和国法第11285号）の要求に基づき、エネルギーマネジメントシステム（EMS）の構築やエネルギー管理者の選任など、工場内のエネルギー管理体制を整備・強化し、GHG排出量の削減に取り組んでいます。